

山陽特殊製鋼株式会社
2021年度第2四半期決算(電話カンファレンス)
質疑応答(要旨)

開催日 2021年10月29日(金)
出席者 代表取締役社長 宮本 勝弘
取締役常務執行役員 高橋 幸三
執行役員経営企画部長 八並 敬之

Q. 同業他社は業績予想を下方修正するなど厳しいが、当社は業績予想を上方修正し好調。他社との違いは何か。

A. 元々、前提を厳しく置いて、業績予想を慎重にみていたということもあるが、大きな違いは、北欧にO v a k oという単独に近い規模の子会社を持ったことだと考えている。O v a k oと当社単独では鉄スクラップサーチャージの仕組みが異なり、O v a k oは鉄スクラップ価格の販売価格への転嫁が早い。そのため、鉄スクラップ価格上昇局面では、当社単独ではマイナスのタイムラグが生じるのに対して、O v a k oはプラスのタイムラグとなるなど、当社単独と逆の動きをしたことがプラスに効いた。

Q. 御社はベース価格の改定を打ち出しているが、2021年度予想には織り込んでいるのか。販売価格改定の状況はどうか

A. 当社は9月3日、ベース値上げを含む販売価格改定を打ち出した。店売りは、かなり実現しつつあり、紐付きも理解を得られつつある。2021年度の業績予想には、この影響をある程度織り込んでいる。販売価格のステージを変えようということで営業部門と連携し、価格改善に取り組んでいる。

Q. 2021年度の実力損益は、160億円程度とのお話があった。2021年度の上期から下期にかけて、原油等の価格が高騰しており、電力単価が来年度大幅に上昇してくるものと思われる。また、電極価格の上昇も想定される。来年度の増益の可能性はあるのか。

A. 足元、原油、石炭、天然ガスの価格が高騰しており、2021年度下期後半や来年度の電力単価、ガス単価に反映されてくる。これが続けば、さらなる販売価格の改定が必要である。これは当社単独だけでなく、O v a k oでも同様。販売数量はほぼ戻ってきており、今後は大きくは伸びない。需給がタイトであることを活かして販売価格改善に取り組み、適正マージンを確保していきたい。

Q. 欧州での電力事情について教えていただきたい。北欧は日本と電源構成がかなり違うが、原油や天然ガス、石炭の高騰による影響はどう考えたらよいか。

A. 原油、石炭、天然ガスの価格が世界的に高騰しているが、北欧は電源構成が日本やドイツ、英国と違うため、電力価格への影響は比較的少ない。北欧でも、水不足による電力価格上昇という面はあるが、欧州他社が燃料価格高騰の影響をより厳しく受ける中、O v a k oは相対的に優位なポジションにあると考えている。

Q. O v a k oの気候サーチャージは、顧客にどの程度受け入れられそうか。また、日本でのエネルギーサーチャージの導入についてどう考えているか。

A. O v a k oの気候サーチャージに対し、顧客企業のトップの受け止めは良好だが、調達部門は、カーボンニュートラルであることと気候サーチャージは別という受け止め方をしているところもある。ただ、コストの増加が大きくなければ、顧客もグリーンスチールであることをアピールしたいはずなので、受け入れられていくと思う。O v a k oのグリーンスチールは、他社に先駆けて、低コストで製造できることをアピールしていきたい。

エネルギーサーチャージの導入については、指標や対象期間など難しい点があり、日本ではそのような例がほとんどない。まず、鉄スクラップサーチャージの適用期間短縮、合金サーチャージの拡大に取り組んでいきたい。

Q. 国内の自動車減産が特殊鋼需要に与える影響について教えてほしい。

A. 自動車メーカーは2～3割程度減産しているが、各社とも年末にかけて回復を図るとしている。自動車以外の産業機械や建設機械、半導体製造装置向けの需要が強いので、トータルの特殊鋼需要は堅調だとみている。

Q. 2021年度上期 vs 2021年度下期で、販売価格・構成は+81億円、原燃料価格は-103億円だが、販売価格改定の効果はどの程度織り込まれているのか。来年度に、その効果がより大きく出てくるという見方でよいか。

A. 2021年度予想には販売価格改定の効果を一定程度織り込んでいる。上期から下期への変化では、効果が生じる期間が短いため面積が小さく、販売価格が原燃料価格の上昇に追いついていないようにみえるが、期末時点では相応の高さに達するとみている。しかしながら来年度には、エネルギー、鉄スクラップ、合金鉄などの原燃料価格がさらに上昇するとみており、今回の価格改定で充分かどうかよく検討し、吸収できない場合は、もう一段の価格改定が必要になると考えている。

Q. I R資料の44ページの軸受在庫循環図を見ると、2021年度第2四半期は、在庫積み増し局面という良い状態にあったところで自動車減産になった。今後どのような動きをすると考えているか。

A. 自動車減産の影響が当社への受注にも少し出てきていると感じている。在庫調整の影響が、9月から10月、11月にかけて出てくると思われるが、その後、東南アジアの部品不足も解消され、自動車も回復に向かい、在庫調整が終わって、年明けには実需ベースになってくると考えている。

Q. M S S Sでは2021年度上期に酸素供給停止による生産停止があったが、現在の状況はどうか。

A. インドでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、病院への酸素供給が優先され、M S S Sへの酸素供給が規制された。6月にはM S S Sへの酸素供給が再開され、感染状況も落ち着いてきたため、7月から通常操業に戻っている。8月下旬には日本人派遣者がインドに帰任し、現地で指揮をとっている。コスト削減や販売価格・構成の改善等により今年度の黒字化も見えてきている。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。